

「お母さんの奮闘に」

中津市長 奥塚 正典

少子化が叫ばれて久しく、ついに日本も人口減少時代を迎えました。そんな中であって、中津市の合計特殊出生率は1.90と県内の市では最も高く、全国に約510ある人口5万人以上の市で見ても20位くらいと相当上位です。この数字が2.07を超えると、転入と転出する人数が同じであれば人口は増えるといわれています。

先日、子育て中のお母さんたちに会いました。3人、4人のお子さんを持つ人、初めてのお子さんという人、働いている人も働いていない人もおりました。

子育てについて伺うと、「子どもを育てるのは大変だが楽しい」、「希望の保育所に預けたい」、「必要な時に面倒を見てくれる人や相談にのってくれる人がいればまた生みたい」、「祖父母が近くで面倒をみてくれ助かる」、「休みや雨の日に子供を連れて遊ばせる所がほしい」、「24時間365日の小児救急医療体制はぜひ維持してほしい」、「医療費の無料化が市町村によって異なる」、「会社の子育てへの理解がほしい」、「イクメン（父親の子育て参加）は当然」など様々な意見がでました。どのお母さんも、子どもが大好きで、子育て真最中の奮闘ぶりは何とも心強く頼もしく、その声は切実でそれぞれに子どもの健やかな成長を心から願うものでした。

子どもを生み、育てやすい環境づくりは市政の重要な課題です。地方の活性化のためには、一人でも多くの方が住む、そこで暮らすための仕事がある、安心・安全な暮らしができる、そして次世代を担う子どもが生まれ育つ。一つが片付けばすべてが解決するという問題ではありません。地域の産業振興や男女の出会いの場づくりを含め、未来を見つめた総合的な取り組みが必要との思いを改めて強くしました。

